

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392800070		
法人名	株式会社夢と希望の華		
事業所名	グループホームたなお (夢の華ユニット)		
所在地	愛知県碧南市源氏町2丁目31番地1		
自己評価作成日	令和6年2月13日	評価結果市町村受理日	令和6年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiyokansaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon:true&amp;JivvosyoCd=2392800070-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaiyokansaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon:true&amp;JivvosyoCd=2392800070-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2		
訪問調査日	令和6年2月19日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホームたなおは、「高齢になっても、認知症状態になっても、夢や希望を持って人生の華を咲かせ続けられるように共に歩みます」の理念の基、認知症状態になっても可能な限り、今までの生活が継続できるように一人一人の状態に合わせた支援を行っています。建物は木造で温かみある、且つ入居者のプライバシーが確保できる空間を大切にしています。また、できる限り施設感を抑え尊厳ある成人の人が暮らす「家」とした環境作りに配慮しています。新型コロナウイルス感染症の影響で当ホームが力を入れている地域に積極的に出て、地域との交流促進が十分に行えていないが、感染対策を取りながらも屋外への外出など出来ることを話し合いながら実践している。また、入居者の方が一人で散歩に出かけている方もいる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所では「夢と希望通信」を毎月発行して、利用者家族に送っています。食事風景、動物とのふれあいなど様々な場面が写真に映し出され、また一人ひとりの表情も豊かで、一目で家族が安心出来ることが覗えます。写真で驚くのは、利用者が他の利用者の食事介助をしていたり、男性利用者が洗濯を干しをおこなっていることです。前者は「職員さん、忙しいでしょ」と利用者が自発的にはじめ、今では職員が「こうしたら」と指南役に廻り、相互扶助の環境を整えています。後者は「家では考えられない」と家族を驚かせるに至り、自己有用感に満ちた暮らしがあることは利用者本人のみならず家族、職員も満ち足りた気持ちにさせています

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に一度のユニット会議にて理念の確認を行うとともに、人事考課の項目にも理念の理解と実践の項目があり理念に沿った実践が行えるようにしている。	自由に往来できるように2つのユニットは1階とし、GPSを帯同するも気が向けば一人で散歩に出掛ける利用者もいて、設備にもケアサービスにも理念が浸透しています。職員配置も潤沢で「時間に追われず取組める」と、理念遂行は職員の働きやすさにも実っています	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	現在は新型コロナウイルス感染の影響で地域に出る機会がほとんどなくなっているが、方針としては積極的に地域に出ることを推進している。また、地域の地蔵祭りや神社のお祭りなどへ個別で参加している	隣近所から野菜が届くほか、地域イベントへのブース出展や「自主防災を考える会」への参画もあります。地域の防災訓練では「見守り役をやるうか」「家に余っている車いす、使うなら届けますよ」と声が挙がり、防災を通じた地域とのつきあいが深まっています	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が認知症初期集中支援チームのチーム員として、地域で困っている方へのサポートを行政と連携しながら行っている。また、R4年10月より認知症伴走型支援事業を市の委託事業として開始している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みやサービスの実際を報告、入居者の様子を写真を見て頂きながらお伝えしている。会議に参加されない家族にも議事録を送付している。また家族からの意見を反映できるように話し合いながら取り組んでいる。	市職員、議員、家族をメンバーとして運営推進会議を隔月開催しており、本年1月で41回目を迎えています。前回会議以降の運営状況、職員の異動、事故報告、行事活動など丁寧な報告があることから、質問や意見交換が活発に繰り返されています	管理者が行政と太いパイプを持つことから、実質必要ではないかも知れませんが、民生委員や自治会長、公民館館長といった地域からの参加メンバーを募ることを期待します
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者がキャラバンメイト連絡会代表や行政の様々な認知症施策に関わっており、行政の担当者と日頃から連絡を取り、当該事業所のことのみでなく市全体の認知症介護について意見交換を行っている	碧南市が主催する3つの会議には定席として管理者が加わっています。認知症や介護保険に係ることから、その事業運営に渡る協議内容を通じて、双方向の理解を蓄積するに至り、行政担当者とも顔なじみの関係を築いています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行わず、外へ出たい方には、自由に出かけられるよう、安全に配慮した上で、出かけて頂いている。実際にGPSを持ち一人で散歩に出かけられている方もいる。身体拘束しなくて済む方法を考えながら日頃のケアに努めている。	開設以来「ロックはおこなわない」として拘束廃止を推進してきており、法改正による本件委員会設置においても従来から運用のリスクマネジメント委員会に併設させ、事業所に起きうるリスク全般において3ヶ月に1度振り返りと課題確認に取り組んでいます	リスクマネジメント委員会の名のもと取組む分野が増えていますので、用紙は1枚であっても中を区切って、時間と記載を分けることを期待します
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、各ユニット会議やリスクマネジメント係の会議を通して虐待と疑われそうな事が無いか日々検証したり、強い口調や虐待になりうる言葉がけにも注意をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、職員全体としては日常生活自立支援事業や成年後見制度に関して学ぶ機会は設けられていないが、管理者、リーダーは制度についての知識は把握している。認知症の人の権利擁護については全職員対象に研修を通して理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、事業所の方針を説明し、納得していただいた上、契約をしていただいている。制度改正等がある場合はその都度改正点などの説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、日常の様子の情報提供をおこない、家族からの希望があればケアプランに反映している。毎月、その月のイベントや日常などを載せた通信や個々の様子をまとめた手紙を送付している。	「夢と希望通信」を毎月発行しており、写真上の利用者の表情も豊かで、一目で家族が安心出来ることが覗えます。また男性利用者が洗濯物を干したり、調理の下準備にかかる姿には、「家ではやったことがない」と家族も驚きつつ、事業所の取組に感謝しています	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の役職者会議を開催しており、その場で職員からリーダーへ上げられた相談や提案を話し合っている。また、管理者も介護業務に入っているため、業務内での相談等も受けている。	計画作成担当者を兼務する管理者が現場に入ることも間々あり、ヒエラルキー感はなく、意見交換や協力体制が横並びのフラクナ形で実現しています。またキャリアアップ制度の導入や配置増強といった労働環境の整備に意欲的なことも優れた点です	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ワークライフバランスを大切に、極力時間外労働が無いようにしている。男性育休の取得や有給取得の推奨など会社からの働きかけも行っている。また、キャリアアップ制度も導入しており、キャリアに沿った賃金体制を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での勉強会やOJTを通して職員教育を行っている。また外部へ委託しオンラインでの研修を実施している。また、初任者研修や実務者研修への参加も会社のサポートを受け受講しているスタッフがいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が広域の介護ネットワークを構築しており、交流会や勉強会にも職員が参加する機会を設けてい居るが、コロナ禍になってからは交流等は行えていない。また、市内のサービス事業所連絡会の幹事も担っており交流連携を図っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	積極的に話かけ、ご本人の話を傾聴しながら関係性づくりに努めている。話を聞く中で、本人の好物なや好きな事などを聞けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にも積極的に話かけ、現場スタッフにも気軽に要望が話せる関係づくりに努めている。面会時など家族の希望や要望を聞き取り、反映できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談時に本人と家族が何が大変になっているかの情報を確認し、本人がどのような時に困っており、どんなケアが必要かを取り入れている。歯科受診など継続的に必要な方には、外部からの往診を続けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に歩みます」と理念にもうたっており、一方的な介護をせず、出来ない部分のみを見るのではなく、本人の得意な事を発揮し続けていけるような支援をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍でも感染対策を取りながら面会や家族との外出は継続し、家族との交流の自由を奪わない様配慮していた。通院など家族が行って頂いている事は、継続して行って頂き、家族との関わりを奪わないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染の影響で、利用者が地域に出る機会が少なくなってきたが、年賀状を利用者が家族や友人に出す事を支援した。また、面会を継続している為、以前からの友人の面会もある。また、少しずつ買い物にも一緒に行くようにしている	耳鼻とか眼科などの専門医への通院は家族にお願いしていて、介護計画書にも位置付けており、面会以外の逢瀬の機会を設けています。過去には馴染みの美容院に通う人もいましたが、3年のコロナ禍の間に利用者の加齢も進み、そういった関係は途絶えています	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が良い関係で過ごせるように、時には職員が介入し、会話や同じ作業など一緒に行っていただけるようにし、より良い関係性を築けるように努めている。入居者がおやつなどを食べさせてくれたりもする。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当ホームでは看取りまで行っている為、殆どの方が看取りもしくは、急変によりなくなる又は入院後に亡くなることにより契約終了がほとんどであるが、必要がある場合はその後も家族の相談支援を行う方針		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に対話し、その人を日々の生活で把握するように努めている。場合によっては、居室など周りの目を気にせずに思いを話せる環境にも配慮したり、個別外出など要望にも柔軟に対応している	主には1対1となれる入浴時におしゃべりを楽しみつつ意向を確認しており、「誕生日ケーキは何かがいいか」といった情報を入手しています。相当気が緩むのか、中には入居時のアセスメントにはない内容がこぼれ出し、職員をビックリさせることもあります	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りでは、暮らしの情報を本人、家族へ聞き取りを行っている。サービス利用前からの馴染みの場所などを聞き取り、外出できるような機会を設けている。馴染みの店などにも一人で買い物へ行く方もみえる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での様子を記録へ残し、職員全員で共有できるように努めている。その日その日にやれる事を行っていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からどのような生活をしていきたいかの情報収集を行い、ケアプランへ反映できるよう努めている。課題に対して、担当職員が主となりカンファレンスを行い、職員全員で統一したケアを行えるように努めている。	法改正により2ユニット2名から「全体で計画作成担当者は1名」に体制を替え、管理者が計作を兼務しています。居室担当者がカンファレンスを取り仕切り、ある程度素案をついたら計作に渡すという連携で、家族の意見は面会や電話で收受しています	サービス担当者会議はコロナ禍以前から取組が薄かったとのことで、5類以降を契機に「増やしていく」考えがありますので、確実な実践につなげることを期待します
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には、タブレットを使用し統一した書き方を徹底し、情報が分かりやすいようにしている。食事量や排泄状況など個別での把握が必要な場合はチェックをしている。また、ケアに必要な事項があればケアプランに追加変更するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望についてはその都度、一緒に考え可能な限り対応できるように配慮している。急な外出への対応や利用者の身の回りの必要品の買物やお墓参りの同行等柔軟に対応できるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所にお寺があり、お参り希望がある方に対しては、可能な限り出かけられるように努め、一人で外出が可能な方にはGPSを持ってもらい好きな時に出かけられるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎朝全員バイタル測定を行い、記録へ残している。平常値ではない方に関しては、時間を空けて再度図るようにし、体調の変化を早期に発見できるようにしている。受診時にも主治医へ伝えられるように努めている。	業務日誌には利用者の血圧、脈拍のほか、その人の病状によっては血糖値の測定もおこなっていることが記録され、更に異常値には印が入り、場合によっては1日で5回もの再測定があつて医療的ケアの充実さが満ちています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と委託連携をし24時間オンコール体制を取っており、必要に応じて適切な指示が受けられる体制を取っている。また、週に1度訪問をしてもらい健康チェックを行い、医師とも連携を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、介護サマリーを作成し、病院への情報提供を行っている。退院前には、院内で行われるカンファレンスに参加できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りまで行う方針であることは、ご家族やスタッフは理解している。看取りでは随時変化に対応できるようにし、今年度もホームで4名看取りを行った。また、看取り後振り返りを行い、今後の支援に活かせるようにしている。	在宅の頃からの主治医を継続する人が3名います。他は徒歩5分圏内の協力医へ必要に応じてお願いしており、急な場合には往診対応も叶っています。24時間オンコールの訪問看護事業所から週1回看護師来訪もあり、看取りへの取組に特段の課題はありません	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のや対応マニュアルは、状況に応じた連絡先の明記や、状態別の対応方法などイラスト入りの雑誌を活用しながらマニュアル化している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間の火災時における避難訓練を行っている、出火場所等も毎回変えることで、どんな状況でもより安全な避難経路を選択できるようにしている。地域の自主防災会議にも管理者が出席し、地域との連携を図っている	日中と夜間の想定で年2回の法定訓練を欠かさず実施しています。台風の非難勧告で公民館に移動するリスク管理を果敢にチャレンジしたときには、事業所がコンビニエンスストアで購入したパンやおにぎりが非難中の地域住民に振る舞われたとのエピソードもあります	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話の内容によっては、リビングなどの多人数が集まるのではなく、居室などで話すようにしている。指示的な声掛けになりやすい傾向がある。丁寧な言葉かけや、時には馴染みのある言葉を使っている。	誕生会ではなく「誕生日会」として、一人ひとりの誕生日を尊重している事例からも事業所の姿勢が確認できます。更に、同日に2名いてもホールケーキはチョコやイチゴといった好みでそれぞれ1つずつ選んでもらい、また連日続いたとしても励行しています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に選択肢のある声掛けをし、希望を聞くようにしているが、積極的に発言をされない方に対しては、本人に合わせた方法で希望を伺えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを優先し、個別での食事提供や入浴時間を変えるようにしているが、時間の都合で職員のペースで行ってしまう事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	新型コロナウイルス感染の影響で理美容は地域の理美容院の利用を中止し、訪問理容を活用している。髭剃りは、仕上げを手伝わせていただいている。朝、寝ぐせのままにしないように整容している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日に食べたい物を聞き取り、希望に合わせた献立も反映できるように努めている。買い物への同行は行ける時は一緒に行くようにしている。調理・配膳・片付けなど利用者と一緒にしている。	食材の買い出しで冷蔵庫を満たし、利用者のリクエストを反映させた食事提供は家庭そのものです。また、その献立の記録は「たんぱく質」「その他(野菜など)」の欄が設けられ、1日の栄養バランスを見える化させていて、利用者の健康への気遣いが覗えます	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日30品目を目標にし、バランスの良い食事を提供し、個々に合わせてサイズや内容を変更したり配慮している。食事量や水分量が少ない方に関しては、場合により、摂っていただけそうな補助食を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアへの声掛けや介助を行い、入れ歯装着者には、夜間洗浄剤を使って清潔に保っていけるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、個々に合ったタイミングでの声掛け、トイレ案内を行っている。ホームとしてテープ式のオムツは使用しない方針。自己排泄の失敗があった場合には速やかに着替えて頂いている。	「テープ式おむつはしない」「車いすに恒常的に座わらない」といったホームルールが確立しており、必要に応じて「トイレには手引き歩行で」として、座面に座る、立ち上がりもリハビリの機会となっていて、自立維持と促進が図られています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトやヤクルト、バナナ、牛乳等、腸内環境を整える飲食物の提供に心掛けている。必要な方は水分量をチェックし、十分な水分の摂取をして頂けるように努めている。主治医とも相談し、服薬での排泄コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員に、毎日入浴への声掛けを行っている。基本夕方前後に入浴していただけるようにしている。午前中や夕食後などを希望される方に対しては、なるべく希望に添えるようにしている。	「法定回数は週2回以上」ですが、当事業所では家庭生活同様に「毎日」の対応を可能としています。利用者の「午前がいい」といった希望にも応え、さらに遅番を21時までとするシフトを敷き、20時までの夜間入浴も実現させています	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、夜間しっかり睡眠がとれるよう、生活リズムを整えていけるよう、個々に合わせた休息の時間を確保している。居室内の温度管理をし、安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方せんを個々ファイルにとじ、いつでも観覧できるようにしている。受診時に、服薬の変更等があれば、記録へ留意点などを記載して様子を観察している。飲み忘れの無いようにチームで最善の方法を随時検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の好きなことや得意なことを把握し、家事など役割を持っている。季節に合った行事も企画している。時間やスタッフに余裕がある時には近所の散歩などにもかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染症の影響で日常的な外出はほとんど行えていない状況だが、毎日の日課で一人で散歩に出かけられている方は感染対策を行ったうえで継続して行けるようにしている。また、感染対策を行ったうえで屋外への季節の花を見に行くなどの外出は行っている	好天で外気温が心配されない日には散歩や買い物にでかけるほか、地域のイベントに足を延ばすこともありますが、遠出外出はおこなっていません。但し、車いすに常時座ることなく、トイレへの手引き歩行にも努めていて、利用者の足腰の筋力は維持されています	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお金を預かり、個々で必要な物があれば、その中からご本人のお金だと説明し使用している。少量のお金であればご自分で管理されており、外出時に自由に使用できる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話の希望がある方は、ホームの電話を使用し電話を掛けたり、年賀状を送ったり、毎月お便りのやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前の菜園には、野菜や季節の花を一緒に植えている。リビングには冷暖房、加湿・空気清浄機を設置し、過ごしやすい環境設備を整えている。廊下には、あえて職員の目が届きにくい空間を用意し、入居者同士が気軽に話ができるようにしている。	「職員さん、忙しいでしょ」と利用者が他の利用者の食事介助を自発的にはじめ、今では職員が「こうしたら」と指南役に廻り、相互扶助の環境を整えているだけあり、通信に挙がっている写真からは、リビングのそこかしこに自らの役割とともに居場所があることが覗えます	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や玄関など目の届きにくい空間にベンチを用意しており、入居者同士が気軽に会話などができたり、一人で休める配慮をしている。入居者同士で居室を行き来したり、お茶を飲みながら過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人・家族の協力のもとエアコンとカーテン以外は全て持ち込んでいただき、食器なども馴染みのある物を持参していただいている。床で寝ていた方は畳を用意されたり、ベッドの方は使用していたベッドを持ってこられている。	重度化した場合は介助の利便性を考慮してベッドの位置を変えることはありますが、基本は在宅の生活の延長線上にあるよう利用者本人の意向を大切にしています。忘年会で居室担当者からプレゼントが贈られることは恒例であり、その品を飾っている部屋もあります	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はお風呂場やトイレのドアの色を変えることによって、「トイレ」などの張り紙をせず施設感を出さないように配慮しながらも区別がつくようにしてある、またキッチンの高さも低くし利用者がキッチンに立って作業がしやすいようにしている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392800070		
法人名	株式会社夢と希望の華		
事業所名	グループホームたなお (希望の華ユニット)		
所在地	愛知県碧南市源氏町2丁目31番地1		
自己評価作成日	令和6年2月13日	評価結果市町村受理日	令和6年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon:true&amp;JivvosyoCd=2392800070-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon:true&amp;JivvosyoCd=2392800070-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2		
訪問調査日	令和6年2月19日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホームたなおは、「高齢になっても、認知症状態になっても、夢や希望を持って人生の華を咲かせ続けられるように共に歩みます」の理念の基、認知症状態になっても可能な限り、今までの生活が継続できるように一人一人の状態に合わせた支援を行っています。建物は木造で温かみある、且つ入居者のプライバシーが確保できる空間を大切にしています。また、できる限り施設感を抑え尊厳ある成人の人が暮らす「家」とした環境作りに配慮しています。新型コロナウイルス感染の影響で当ホームが力を入れている地域に積極的に出て、地域との交流促進が十分にできていないが、感染対策を取りながらも屋外への外出など出来ることを話し合いながら実践している。また、入居者のそばに散歩に出かけている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所では「夢と希望通信」を毎月発行して、利用者家族に送っています。食事風景、動物とのふれあいなど様々な場面で写真に映し出され、また一人ひとりの表情も豊かで、一目で家族が安心出来ることが覗えます。写真で驚くのは、利用者が他の利用者の食事介助をしていたり、男性利用者が洗濯を干しをおこなっていることです。前者は「職員さん、忙しいでしょ」と利用者が自発的にはじめ、今では職員が「こうしたら」と指南役に廻り、相互扶助の環境を整えています。後者は「家では考えられない」と家族を驚かせるに至り、自己有用感に満ちた暮らしがあることは利用者本人のみならず家族、職員も満ち足りた気持ちにさせています

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に一度のユニット会議にて理念の確認を行うとともに、人事考課の項目にも理念の理解と実践の項目があり理念に沿った実践が行えるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	現在は新型コロナウイルス感染の影響で地域に出る機会がほとんどなくなっているが、方針としては積極的に地域に出ることを推進している。また、地域の地蔵祭りや神社のお祭りなどへ個別で参加している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が認知症初期集中支援チームのチーム員として、地域で困っている方へのサポートを行政と連携しながら行っている。また、R4年10月より認知症伴走型支援事業を市の委託事業として開始している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みやサービスの実際を報告、入居者の様子を写真を見て頂きながらお伝えしている。会議に参加されない家族にも議事録を送付している。また家族からの意見を反映できるように話し合いながら取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者がキャラバンメイト連絡会代表や行政の様々な認知症施策に関わっており、行政の担当者と日頃から連絡を取り、当該事業所のことのみでなく市全体の認知症介護について意見交換を行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行わず、外へ出たい方には、自由に出かけられるよう、安全に配慮した上で、出かけて頂いている。実際にGPSを持ち一人で散歩に出かけられている方もいる。身体拘束しなくて済む方法を考えながら日頃のケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、各ユニット会議やリスクマネジメント系の会議を通して虐待と疑われそうな事が無いか日々検証したり、強い口調や虐待になりうる言葉がけにも注意をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、職員全体としては日常生活自立支援事業や成年後見制度に関して学ぶ機会は設けられていないが、管理者、リーダーは制度についての知識は把握している。認知症の人の権利擁護については全職員対象に研修を通して理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、事業所の方針を説明し、納得していただいた上、契約をしていただいている。制度改正等がある場合はその都度改正点などの説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、日常の様子の情報提供をおこない、家族からの希望があればケアプランに反映している。毎月、その月のイベントや日常などを載せた通信や個々の様子をまとめた手紙を送付している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の役職者会議を開催しており、その場で職員からリーダーへ上げられた相談や提案を話し合っている。また、管理者も介護業務に入っているため、業務内での相談等も受けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ワークライフバランスを大切に、極力時間外労働が無いようにしている。男性育休の取得や有給取得の推奨など会社からの働きかけも行っている。また、キャリアアップ制度も導入しており、キャリアに沿った賃金体制を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での勉強会やOJTを通して職員教育を行っている。また外部へ委託しオンラインでの研修を実施している。また、初任者研修や実務者研修への参加も会社のサポートを受け受講しているスタッフがいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が広域の介護ネットワークを構築しており、交流会や勉強会にも職員が参加する機会を設けてい居るが、コロナ禍になってからは交流等は行えていない。また、市内のサービス事業所連絡会の幹事も担っており交流連携を図っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	積極的に話かけ、ご本人の話を傾聴しながら関係性づくりに努めている。話を聞く中で、本人の好物なや好きな事などを聞けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にも積極的に話かけ、現場スタッフにも気軽に要望が話せる関係づくりに努めている。面会時など家族の希望や要望を聞き取り、反映できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談時に本人と家族が何が大変になっているかの情報を確認し、本人がどのような時に困っており、どんなケアが必要かを取り入れている。歯科受診など継続的に必要な方には、外部からの往診を続けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に歩みます」と理念にもうたっており、一方的な介護をせず、出来ない部分のみを見るのではなく、本人の得意な事を発揮し続けていけるような支援をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍でも感染対策を取りながら面会や家族との外出は継続し、家族との交流の自由を奪わない様配慮していた。通院など家族が行って頂けている事は、継続して行って頂き、家族との関わりを奪わないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染の影響で、利用者が地域に出る機会が少なくなってきているが、年賀状を利用者が家族や友人に出す事を支援した。また、面会を継続している為、以前からの友人の面会もある。また、少しずつ買い物にも一緒に行くようにしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が良い関係で過ごせるように、時には職員が介入し、会話や同じ作業など一緒に行っていただけるようにし、より良い関係性を築けるように努めている。入居者がおやつなどを食べさせてくれたりもする。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当ホームでは看取りまで行っている為、殆どの方が看取りもしくは、急変によりなくなる又は入院後に亡くなることにより契約終了がほとんどであるが、必要がある場合はその後も家族の相談支援を行う方針		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に対話し、その人を日々の生活で把握するように努めている。場合によっては、居室など周りの目を気にせずに思いを話せる環境にも配慮したり、個別外出など要望にも柔軟に対応している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りでは、暮らしの情報を本人、家族へ聞き取りを行っている。サービス利用前からの馴染みの場所などを聞き取り、外出できるような機会を設けている。馴染みの店などにも一人で買い物へ行く方もみえる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での様子を記録へ残し、職員全員で共有できるように努めている。その日その日にやれる事を行っていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からどのような生活をしていきたいかの情報収集を行い、ケアプランへ反映できるよう努めている。課題に対して、担当職員が主となりカンファレンスを行い、職員全員で統一したケアを行えるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には、タブレットを使用し統一した書き方を徹底し、情報が分かりやすいようにしている。食事量や排泄状況など個別での把握が必要な場合はチェックをしている。また、ケアに必要な事項があればケアプランに追加変更するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望についてはその都度、一緒に考え可能な限り対応できるように配慮している。急な外出への対応や利用者の身の回りの必要品の買物やお墓参りの同行等柔軟に対応できるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所にお寺があり、お参り希望がある方に対しては、可能な限り出かけられるように努め、一人で外出が可能な方にはGPSを持ってもらい好きな時に出かけられるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係性を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎朝全員バイタル測定を行い、記録へ残している。平常値ではない方に関しては、時間を空けて再度図るようにし、体調の変化を早期に発見できるようにしている。受診時にも主治医へ伝えられるように努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と委託連携をし24時間オンコール体制を取っており、必要に応じて適切な指示が受けられる体制を取っている。また、週に1度訪問をしてもらい健康チェックを行い、医師とも連携を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、介護サマリーを作成し、病院への情報提供を行っている。退院前には、院内で行われるカンファレンスに参加できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りまで行う方針であることは、ご家族やスタッフは理解している。看取りでは随時変化に対応できるようにし、今年度もホームで4名看取りを行った。また、看取り後振り返りを行い、今後の支援に活かせるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のや対応マニュアルは、状況に応じた連絡先の明記や、状態別の対応方法などイラスト入りの雑誌を活用しながらマニュアル化している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間の火災時における避難訓練を行っている、出火場所等も毎回変えることで、どんな状況でもより安全な避難経路を選択できるようにしている。地域の自主防災会議にも管理者が出席し、地域との連携を図っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話の内容によっては、リビングなどの多人数が集まるところではなく、居室などで話すようにしている。指示的な声掛けになりやすい傾向がある。丁寧な言葉かけや、時には馴染みのある言葉を使っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に選択肢のある声掛けをし、希望を聞くようにしているが、積極的に発言をされない方に対しては、本人に合わせた方法で希望を伺えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを優先し、個別での食事提供や入浴時間を変えるようにしているが、時間の都合で職員のペースで行ってしまう事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	新型コロナウイルス感染の影響で理美容は地域の理美容院の利用を中止し、訪問理容を活用している。髭剃りは、仕上げを手伝わせていただいている。朝、寝ぐせのままにしないように整容している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日に食べたい物を聞き取り、希望に合わせた献立も反映できるように努めている。買い物への同行は行ける時は一緒に行くようにしている。調理・配膳・片付けなど利用者と一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日30品目を目標にし、バランスの良い食事を提供し、個々に合わせてサイズや内容を変更したり配慮している。食事量や水分量が少ない方に関しては、場合により、摂っていただけそうな補助食を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアへの声掛けや介助を行い、入れ歯装着者には、夜間洗浄剤を使って清潔に保っていけるように努めている。		



## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、個々に合ったタイミングでの声掛け、トイレ案内を行っている。ホームとしてテーブル式のオムツは使用しない方針。自己排泄の失敗があった場合には速やかに着替えて頂いている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトやヤクルト、バナナ、牛乳等、腸内環境を整える飲食物の提供に心掛けている。必要な方は水分量をチェックし、十分な水分の摂取をして頂けるように努めている。主治医とも相談し、服薬での排泄コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員に、毎日入浴への声掛けを行っている。基本夕方前後に入浴していただけるようにしている。午前中や夕食後などを希望される方に対しては、なるべく希望に添えるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、夜間しっかり睡眠がとれるよう、生活リズムを整えていけるよう、個々に合わせた休息の時間を確保している。居室内の温度管理をし、安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方せんを個々ファイルにとじ、いつでも観覧できるようにしている。受診時に、服薬の変更等があれば、記録へ留意点などを記載して様子を観察している。飲み忘れの無いようにチームで最善の方法を随時検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の好きなことや得意なことを把握し、家事など役割を持っている。季節に合った行事も企画している。時間やスタッフに余裕がある時には近所の散歩などにもでかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染症の影響で日常的な外出はほとんど行えていない状況だが、毎日の日課で一人で散歩に出かけられている方は感染対策を行ったうえで継続して行けるようにしている。また、感染対策を行ったうえで屋外への季節の花を見に行くなどの外出は行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお金を預かり、個々で必要な物があれば、その中からご本人のお金だと説明し使用している。少量のお金であればご自分で管理されており、外出時に自由に使用できる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話の希望がある方は、ホームの電話を使用し電話を掛けたり、年賀状を送ったり、毎月お便りのやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前の菜園には、野菜や季節の花を一緒に植えている。リビングには冷暖房、加湿・空気清浄機を設置し、過ごしやすい環境設備を整えている。廊下には、あえて職員が目が届きにくい空間を用意し、入居者同士が気軽に話ができるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や玄関など目の届きにくい空間にベンチを用意しており、入居者同士が気軽に会話などができたり、一人で休める配慮をしている。入居者同士で居室を行き来したり、お茶を飲みながら過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人・家族の協力のもとエアコンとカーテン以外は全て持ち込んでいただき、食器なども馴染みのある物を持参していただいている。床で寝ていた方は畳を用意されたり、ベッドの方は使用していたベッドを持ってこられている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はお風呂場やトイレのドアの色を変えることによって、「トイレ」などの張り紙をせず施設感を出さないように配慮しながらも区別がつくようにしてある、またキッチンの高さも低くし利用者がキッチンに立って作業がしやすいようにしている		